

民生常任委員会

●納税組合長手当支給条例を廃止する条例の制定について

「条例廃止により、滞納者が増えはしないかと懸念するがどうか」との質疑に対して、「納税組合は、収納割合、率ともに口座振替や一般納付と比較して低い状況である。宇城市を除く県下13市のうち9市がこの手当を廃止しているし、平成17年の個人情報保護法の全面施行等を勘案し条例廃止に至った」との答弁があった。これを受け、「滞納対策に向けて一層努力し、収納率アップを目指してほしい」との要望があった。

●平成21年度一般会計補正予算（第6号）

○健康増進事業費について
「女性特有のがん検診は最近始まった事業と思うが、何人が受診したのか」との質疑に対して、「受診者数は子宮がん418人、乳がん698人。受診率は3割

弱だった。5歳刻みで無料としたが、受診率増加には結びつかなかった」との答弁があった。これを受け、「もつと積極的にPRすべきである」との意見があった。

●平成21年度国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

○保健事業費について

「人間ドック委託料を減額しているが、その原因は何か」との質疑に対して、「約700人を予定し、実際は520人程度であった。受診期間が5月から9月までと短いことが受診者が少なかった要因と考える。受診期間を平成22年度末までに改正したい」との答弁があった。

●平成21年度介護保険特別会計補正予算（第3号）

○地域介護・福祉空間整備等補助金について

「施設建設補助金を減額しているが、今後の見通しはどうか」との質疑に対して、「地域密着型介護施設の募集をし、グループホーム2か所の応募があったが、

小規模多機能型介護施設については、地理的な問題等もあるのか事業所の応募がなかった。県との協議の結果、平成22年度当初予算に計上し、再度募集をするこの了承を得ている」との答弁があった。

●平成22年度一般会計予算

○環境衛生総務費について

「龍燈苑はどのような状況なのか」との質疑に対して、「龍燈苑建替え工事の基本・実施設計の業務委託は平成21年度中に終了し、22年度に主な工事を行う。建物は22年度中に完成予定で、23年度に古い炉の解体工事を行い、新しい炉を五つ作る。23年10月工事を完了予定である」との答弁があった。

文教常任委員会

●平成21年度一般会計補正予算（第6号）

○公民館費について

「家庭教育学級補助金の申請は、年々要項が厳しくなっていると話を聞くがど

うか」との質疑に対し、「家庭教育学級は、子を持つ保護者の勉強の場という位置付けであり、子ども会の活動と重複する部分があるため、はつきりとした要領等を示しながら、地域で説明会を行って募集をしている状況である」との答弁があった。

●平成22年度一般会計予算

○幼稚園費について

「三角幼稚園の園児数が6人となる見込みのため、平成22年度からの休園を視野に入れ、関係者と協議を進めていると詳細説明を受けたがどのような経緯か」との質疑に対し、「このままでは教育効果も上がらず、園児たちのことを考えれば、ほかの園の子どもたちと過ごした方がいいと判断し、休園するという方向で説明会を開催した」との答弁があった。

それに対し、委員会として「保護者との対話を大事にしながら、三角幼稚園の在り方をもつと煮詰めていくべきではないか」との意

見であった。

○学校給食費について

「社会で給食費の未納が問題となっているが、どのような対応をしているのか」との質疑に対し、「学校長に権限があるため、学校の方で催促状を発送している。振込みになったことが、給食費未納につながった一番の要因であるとの報告を受けている。検討しているが、なかなか減らないのが実情である」との答弁があった。

それに対し、「生活が困窮している家庭はともかく、普通に生活できる家庭が納めていないと聞き憤りを感じる」との意見があった。



UKI-CITY ASSEMBLY REPORT 一般質問 UKI-CITY ASSEMBLY REPORT

坂本順三 議員

「少子化対策について」

問 少子化対策について、今までの施策とその効果は。
健康福祉部長 取組については、今まで児童手当交付金の支給、乳幼児医療費の助成、妊婦健診審査臨時交付金事業、従来の児童扶養手当に加え、新たに父子世帯にも本年4月から制度創設の予定。また、市独自の支援策として本年度から保育園、児童館入所の第3子以降の保育料の無料化実施。効果として、第3子以降の保育料の無料化実施に伴い、入園時の児童数が平成20年度から21年度にかけ、約倍近くの入所者の申し込



みがあり、保護者に対する就業の場等の総合的支援に十分効果があつたのではないかと。

問 子育て支援住宅について、6月議会でも質問したが、旧町営住宅の跡地もあり、スペースは十分あると思う。市長は動向を見ながら市場調査を行い、検討していきたいとの答弁であつたがどうか。

市長 住宅の必要性及び児童数の減少は、地域住民にとっては大きな課題であり、深刻な問題である。平成22年度市営住宅の補充入居申込者を対象に、子育て支援住宅を建設した場合の入居希望等のアンケート調査を行い、子育て支援住宅が必要であれば整備促進を図つてまいりたい。

「潮溜まりについて」

問 松合地区の潮溜まりについて、泥が堆積して潮溜まりの役目を果たしてないように思う。大雨が降るとび川があふれ、暖かくなると泥がヘドロ化して異臭を放ち、二重三重の被害を及ぼしている。どのような対応をしているのか。

経済部長 平成19年度、21年度において、地元役員、宇城地域振興局、経済部において状況の調査をした。今後、県と協議しながら、しゅんせつ等の要望を行つてまいりたい。

問 樋門の整備について、救の浦、大見地区の樋門が老朽化して危険な状態にあるが今後の対応は。

経済部長 昭和54年に築造され30年以上経過し、老朽化が進んでおり、コンクリートのはがれやクラックが見られ、海水の流入もある。県と再度、現地調査を実施し、潮溜まりと一帯となった整備が必要と考えている。早期に樋門の改修が

できるよう県に強く要望していく。

問 山須浦、仲地区の両地区には公園が無い。きれいに整備された潮溜まりを利用した公園はできないか。

経済部長 補助事業で整備しているため、いろいろな制約はあるが、地域住民の憩いの場や公園としての利活用の要望、例えば面積、高さ等、県とどの程度までの利活用ができるか現地調査をしたい。また、地域住民と話をしながら、近くにそういう場所はないか調査検討していく。

中山弘幸 議員

「宇城ブランドの確立について」

問 クマモトオイスター、日本名シカメガキは、不知火町史によると、慶応年間に養殖が始まり、不知火ガキとして全国にその名が知られた。主に、高良、永代橋河岸にカキむき小屋を建てて、集団で作業が行われていた。昭和40年代に姿を

消したが、昭和22年に海を渡り、現在でもアメリカでは世界一おいしいカキとして人気が高く、日本では1996年頃からカキの女王としてアメリカから逆輸入されている。前市長が、これに目をつけ、平成18年から県の水産試験場で養殖試験を行い、このほど養殖に成功した。これを宇城市のブランドに育て上げることができれば、漁業再生また地域の活性化の救世主になるかもしれない。熊本県でも、平成22年度、600万円の予算をつけて県産ブランドとしての商品化に向け、クマモトオイスターの知名度向上と販路拡大に取り組まれるが、是非熊本ブランドという前に、宇城ブランドとして確率すべく、取り組んでいただきたい。
市長 世界的なブランドとなっている幻のカキ、クマモトオイスターの原種とされるシカメガキの発祥の地は宇城市であり、市としては、水産研究センター及び漁協と連携をとり、市の特